

ストップ！農作業事故 農業を安全な産業に

農作業事故死亡者は年間400人、農業者は減っているのに事故の数は減りません。死亡率は交通事故の2倍。農業は最も危険な産業の一つです。

でも、地域でどんな事故が起きているのか、農協も仲間の組合員も知りません。

事故はだれの責任でしょう。事故を農業者だけの責任にして「気をつけなさい！」と呼び掛けているだけでは事故を減らすことはできません。農協も、組合員も、農機具メーカーもみんなで手を取り合って事故を減らし、農業を安全な産業にしましょう。

1. 農機具の安全対策

農機具は働く人の安全より作業効率を優先してきました。

SSや、トラクターは、ブレーキを踏んでも止まりません。意思と無関係に作業を続けます。

「止まれ！」と思ったときに、止められる仕組みを。動かしたいとき簡単に始動できるように。作業効率より安全を優先して。新車だけでなく、後付けできるように。



2. 圃場の整備

坂道や傾斜地、細いあぜ道の整備や、危険な枝の撤去等圃場の見直しを行いましょう。生産部会と協力して、管内を巡回して「安全な作業環境の整備運動」をしましょう。

3. 安全意識の向上

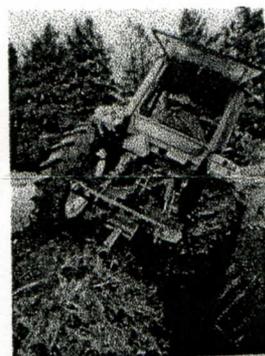
農業をする人だけに責任を負わせていても事故は減りません。

農協やメーカーや仲間達みんなで見守る事が、事故を減らす唯一の方法です。上り旗やキーホルダーよりもっと身近で、もっと気持ちのこもったお守りを。

4. 万一の時の保障

万一、事故が起きてしまった時の対応や保障も必要です。

残された家族や、子供達のために・・・農業の継続支援や、育英資金の制度も。



◎ 農協に出来ること

実態把握・・・過去の事故調査⇒原因究明⇒再発防止策の構築

事故報告システムの構築。(組合員⇒農協へ⇒県へ⇒国へ・・・組合員へ)

農機具メーカーへの要望・安全設備の共同開発(現場の声を伝える)

安全大会の実施(お守りの供養、事例報告、再発防止策、安全再確認)

共済連との連携(事故の分析、制度の検討、農業継続の援助、育英資金の設立)

女性・高齢者・新規就農者のための農作業安全教室の開催

組合員の悲しみを農協の悲しみとして・・・痛みの共有が出発点

◎ 私達に出来ること

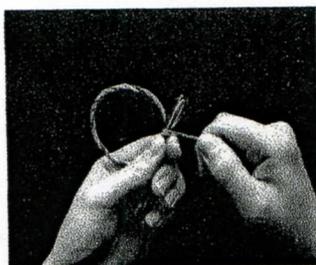
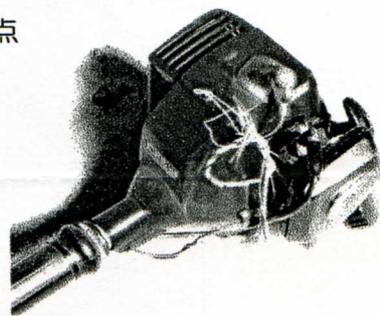
事故報告(事故に逢ったらまず農協へ、情報を仲間で共有)

生産部会を中心に、自分達で農家巡回と圃場整備

万一に備えて自分と家族を守る。

意識向上のための施策(女性がキーポイント)

安全意識を高めて、安全に農作業をする。



大切な人に「心のわ」を作って送みましょう

妻から夫に、子供から両親に、孫からお爺ちゃんに、あなたの大切な人に「心のわ」を作って送みましょう。薄暗くなってもう一回りしようと思った時、あなたが作った「心のわ」を見て、「無理はよそう」と思うでしょう。それで事故が減らせるかもしれません。

作った人と使う人の「心」をつなぐ「わ」が、農協や仲間達に広がって、農作業事故を減らすための大きな一歩になりますように・・・。